

ぎなん

10月
(2)岐南中学校教育目標
自ら動く

【後期に向けて！】

前期が終わった時の生徒代表の言葉が2年6組の脇坂一輝くんの言葉でした。自分の言葉で語った姿が素敵でした。内容もとても良かったです。ぜひ、保護者の方にも読んでいただきたくて、学校だよりに掲載しました。

いつも、階段の踊り場に貼ってある紙を見ると、あの日のことを思い出します。

あの日は金曜日でした。あの朝に抱いた感情は、一言では言い表せません。期待、緊張、不安。さまざまな感情が入り乱れていました。一刻一刻が過ぎていくうちに、心臓の鼓動はどんどん早くなっていったのはよく覚えています。校舎に入っても、周りの様子はいつもと同じなのに違和感を覚えてくらしいです。

そして8時20分を迎えました。心臓の高鳴りは最高潮に達しました。

しかし、その高鳴りは、その後すぐに止まりました。淡々と述べられるその結果に、心が落ち込みました。結果を受けて、クラスで話す時も、何度も話が止まってしまいました。そんな自分がじれったく感じられました。

選挙が終わっても、踊り場の公約のポスターは片付けられなかったので、まだ終わった気がしませんでした。

「後期執行部で活動したい あなた」立志塾の要項には、そう書かれていました。その頃から、選挙のことを考え始めました。

生徒会に、再び挑戦したい。でも、自分よりもふさわしい人はたくさんいる。その中で、自分が立候補する意味はないのではないか。当時はそんな思いだったので、選挙管理委員をやろうかな、と思っていました。そうすれば、選挙にも関われる、と。

ところが、その目論見は外れました。先生が「選挙管理委員」をやりたい人と聞いた時、迷いがありました。やりたいけれど、生徒会には挑戦できない。でも、別に自分が挑戦する必要はないんじゃないか。「選挙管理委員になったら、生徒会に立候補できない」から、挑戦から逃げようとしていました。しかし、手を挙げる人がいたのです。自分は迷って手を挙げなかったので、逃げ場は断たれた思いでした。「自分がやるしかない」と。

そうして、夏休みのうちに選挙の準備を進めていきました。柊先生と何度もやりとりして、公約を完成させました。そしてあっという間に夏休みが明け、いよいよ選挙活動が始まりました。

ところが、またも葛藤を抱えることになりました。「そもそも、リーダーをやる意味はあるのか、クラスのために動いていいことはあるのか。」という根本的な問いです。例えば自習中に私語をしている仲間がいて、その人に注意したとします。でも、そうしてもその人の意識や考え方が変わらず、しばらくした後でまた喋り出したり、明日には治っていなかったりする。だから、注意をしても意味はないんじゃないか。

そう考えてしまうと、選挙活動に身が入らなくなりました。日常でも、誰かがよくないことをしていても、それを見過ごすことが増えていく自覚がありました。

そんなとき、ある小説の言葉に救われました。

「俺たちは奇跡を起こすんだ」

小説では、犯罪を犯してしまった少年たちと関わる、家庭裁判所の調査官が描かれています。その中で、飲食店で「駄目な少年には、何をしても駄目なんだよ。」と絡んでくる人に対し、主人公である調査官が発した言葉です。どれだけ努力してもよくならない少年はいるかもしれない。というか、ほとんどがそうかもしれない。でも、奇跡を起こしてみせる。それが仕事だ。ということです。

この言葉を知って、悩みが消え去りました。いくら思いをもって努力しても、授業中に私語を続けたり、タブレットを見たりする人の意識や考え方は変わらないことが多い。でも、奇跡は起こる。その奇跡を起こすために、行動していかなければならない。この言葉は、そんなことに気付かせてくれました。

そして、結果発表の金曜日を迎えました。当選した、と分かったとき、すぐには喜べませんでした。「本当に？」と聞きたいぐらい、信じられませんでした。しかし、委員長協議会などを通して、少しずつそれを呑み込むことができました。

こうしてこの場に立つまでには、自分の弱みに何度も負けそうになりました。でも、そんな時も、落ち込んだり、悲しくなったりしながら、何とか前を向くことができました。自分の弱みに打ち勝つ方法は、まだ分かりません。これからも自分の弱みに負けそうになることが何度もあると思います。でも、自分なりに苦労して、それに立ち向かっていきたい。この思いを、忘れずに持ち続けていきたいです。